

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書／事後評価書

団体名	公益財団法人出雲市芸術文化振興財団	
施設名	出雲市民会館	
内定額	7,050	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		348	348
年間事業本数（※1）	主催事業	5	5
	公演事業	3	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	1	1
	（内、本助成対象事業本数）	1	1
	普及啓発事業	1	1
	（内、本助成対象事業本数）	1	0
	その他 内容： 記入してください		
貸館日数	ホールごとの貸館日数	173	175
	ホール名： 大ホール 座席数： 1,210	173	175
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	5,366	5,851
	公演事業	2,480	3,346
	人材養成事業	329	320
	普及啓発事業	2,557	2,185
	その他 内容： 記入してください		
	貸館事業入場者・参加者数	70,374	98,428
	その他 内容： 記入してください		
	計	75,740	104,279
施設の利用率(%)		44.0%	46.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※4）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	3	3	2,507	73.7%	0	2	0	0	0	0	1
	共催・提携公演（※2）	0	0	0	0.0%	0	0	0	0	0	0	0
	貸館公演（※3）	77	82	49,200	50.0%	7	28	3	1	2	7	29
	計	80	85	51,707								
令和6年度	主催公演（※1）	3	3	3,200	91.2%	0	2	0	1	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	1	1	550	45.5%	0	1	0	0	0	0	0
	貸館公演（※3）	72	72	65,942	75.7%	17	15	0	3	0	0	37
	計	76	76	69,692								

※1 名義主催は除きます。

※2 名義共催を含みます。

※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。

※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業番号	事業名	入場者数	入場率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							
		目標値							
		実績値							

3. 自己評価

評価項目①: 創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	・アカデミー受講者数 ・受講者の反応	・320名 ・アンケートで高評価を得る(講座内容、講座回数について60%以上が「満足」と回答)	・320名 ・90%	・人材養成事業において、当初目標としていた受講者数が、320名を達成することができた。また、90%が満足感を得て活動しており、音楽を通じて創造性と感性を高める成果となった。	◇この講座は出雲市が2005年に制定した「21世紀出雲芸術文化のまちづくり条例」に基づき創設されたものである。市民の音楽活動参加によるまちの活性化を目的としている。 ◇今回の公演等調査におけるジュニアオーケストラ練習の印象からも講師および関係者の熱心な指導は受講生にも伝わっている印象を強くした。 ◇練習室の下の階ではちょうど初心者クラスのオーディションなどが行われておりこちらも見学できた。オーケストラの将来を支える子供たちである。音楽芸術の喜びと畏敬の念を醸成することで次世代の「音楽のまち出雲」を担う人材の登場を期待する。 ◇受講者目標数320名をクリアしたことは、今後の出雲芸術文化事業を前向きに展望する実績となろう。	
普及啓発事業						

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

◆出雲芸術アカデミー音楽院に関するアンケート調査より抜粋 ・様々な年齢層の人と関わることができ、音楽の知識を深めることができる。 ・指導を受けて上達していることがわかる。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・外国人が通園する幼稚園での音楽鑑賞機会の提供	・1回	・1回	・外国人が通園する幼稚園に出向き、音楽鑑賞や楽器体験を実施し、音楽芸術に興味を持ってもらうことができた。	◇在住外国人としては出雲の日本企業の工場に日系ブラジル人やフィリピン人も多く居住している。その中には施設利用希望者もあり、地域サポーターもあることから今後の交流を期待している。 ◇出雲は歴史的な土地柄を反映して観光客は多いが訪日外国人は少ない。出雲の持つ日本の歴史、伝統を反映したイベントは、外国人にとっても魅力的で興味深いものとなるであろう。インバウンド対策としては伝統行事を組み合わせたホール活用なども考えられるのでは。 ◇芸術文化からは離れるが、劇場・音楽堂を地域の拠点機能として考えた場合、音楽堂内の空き室を使い毎月外国人のための日本語学習教室を実施することなども考えられよう。市民会館になじむことで将来、市民会館の公演やその他の催しへの参加も期待できるだろう。 ◇出雲市のポリシーとして多文化共生をうたっていることもあり今後の展開を期待している。	

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

◆アウトリーチ事業に関するアンケート結果より抜粋 ・演奏後も学級で歌ったり、「楽しかった」「大きな音だった」と感想があり、とても印象が残る様子が見られた。
◆アウトリーチ事業に関するアンケートから次のような感想が寄せれた ・音楽演奏が楽しく、知らない曲も知った ・いろんな楽器を近くでみれてうれしかった

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
・出雲芸術アカデミーの認知度調査	・アンケートで30%以上が「知っている」と回答	・38. 7%	・概ね目標どおりの成果となったが、「聞いたことはあるが、よくわからないや知らない」が、44. 6%あり、認知度を高めるよう周知につとめたい。	◇アンケートにおいて数値の目標は下回るものもあったが、「新しい仲間ができた」などの回答内容からその成果が伺い知れ今後の展開が期待できる。	
・子ども達への楽器体験機会の提供	・2回	・2回	・楽器体験の機会の提供において、目標どおり2回(受講生楽器体験会、出雲ドームかみあり吹奏楽フェスタ)実施することができ、音楽に興味をもってもらえる成果となった。	◇出雲の地域性としてはホールの活動内容の告知や友の会などファンクラブによる囲い込みが急務である。	
・中学生までの子どもを対象とした音楽鑑賞機会の提供	・春まちコンサート来場者400名	・400名	・春まちコンサートにおいて、目標どおり400名の来場があり、鑑賞者育成や劇場活性化につながる成果となった。	◇ホールの認知度は高いと思うが今後は学校、芸術諸団体との連携によるホールの告知、露出を高める工夫が必要か。難問ではあるが。	
・新たなコミュニケーションの創出状況	・受講生へのアンケートで80%以上が「新しい仲間ができた」と回答	・75%	・アンケートにおいて、目標をやや下回る結果となった。		
・生活の質の向上度	・18歳以上の受講生へのアンケートで80%以上が「講座に参加することが生活のなかで大切な時間となっている」と回答	・68%	・アンケートにおいて、目標を下回る結果となった。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

◆アウトリーチ事業に関するアンケート結果より

・春まちコンサート アウトリーチの様子について帰宅後、家庭で話題となり、チラシもあったことから、1月の「春まちコンサート」に親子で出かけたいという声がたくさん聞かれた。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・総合舞台芸術実演に向けた多様な講座の開催	・2コース9講座を開講(講座名と回答) 【舞台芸術創造コース】 *ジュニアフィル・オーケストラ講座40回 *オーケストラ・レパートリー講座24回 *ジュニアフィル・コーラス講座40回 *アクティング・クワイア講座24回 *クラウド・オペラ演習講座24回 【生涯楽修コース】 *幼児講座(親子講座)22回 *キッズ音楽入門講座40回 *コーラス・レパートリー講座32回 *邦楽合奏講座12回	・2コース9講座を開講(講座名と回答) 【舞台芸術創造コース】 *ジュニアフィル・オーケストラ講座44回 *オーケストラ・レパートリー講座24回 *ジュニアフィル・コーラス講座41回 *アクティング・クワイア講座24回 *クラウド・オペラ演習講座22回 【生涯楽修コース】 *幼児講座(親子講座)21回 *キッズ音楽入門講座41回 *コーラス・レパートリー講座35回 *邦楽合奏講座12回	・概ね目標どおりの回数を実施しており、舞台芸術創造コースでは、小学1年生から大人の受講生が、基本奏法を身につけ、アンサンブル等の技能を高めることができた。生涯楽修コースでは、2歳児から高齢者まで幅広い年代の受講生が、生涯にわたって楽しむ・親しむ・学ぶことができ、音楽活動促進の成果となった。 ・アウトリーチ事業の実施数において、目標としていた件数を超える21件を実施し、音楽芸術に興味をもってもらえる成果となった。	◇目標に対し想定どおりの成果を上げている。 ◇前ページにみられるように地域拠点機能としての成果は十分とは言えない。 ◇ただし今回公演調査を実施したジュニアオーケストラにおける練習風景は真面目なものであり指導者(指揮者)の情熱も強いものがあった。 ◇アウトリーチは手間のかかる事業項目である。ただし将来の芸術愛好家育成には大切な手間である。 ◇自己評価にはないが、障がいや経済的事情で来場できない人々への配慮(社会包摂)もお願いしたい。 例:長期療養施設への出張演奏など、出かけることが困難な方々へのアウトリーチへの取組み	
・アウトリーチ事業の実施数	・20件	・21件			

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

◆出雲芸術アカデミー音楽院に関するアンケート結果より抜粋 ・音楽の理論を学べることができ、指導者のもとで活動ができ上達することが楽しい。 ・楽器を吹くことや周りの人たちとの交流、新しい音楽・メロディーに出会えることが楽しい。 ・音楽、歌により一層親しむ姿が見られ、演奏で聴かせていただいた歌を口ずさんだり、リズムをとって歌を歌ったりと伸び伸びと表現を楽しむようになった。
◆出雲芸術アカデミー音楽院に関するアンケート結果より抜粋 ・音楽に触れる楽しさを味わったことがきっかけとなり、翌日早速いろいろな楽器に触れて遊ぶ姿が見られた。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
・(成果発表)受講生成果発表のコンサートを開催

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・ファミリーコンサートの入場者数	・600名	・822名	・出雲芸術アカデミー音楽院受講生が1年間の集大成として学びの成果を発表するファミリーコンサートにおいて、目標を超える入場者があり、多くの市民に成果を披露することができた。	◇出演者の家族を含めた実績値とはいえ、目標を大きく超えた入場者数があつたことは評価できる。 ◇この結果が次年度からの参加者増につながることを期待する。 ◇そのためには単年度ではなく3～5ヶ年程度での育成計画を緻密に練り上げ実行に移すような施策が必要と考えられる。	

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

◆人材養成事業の各種事業類型において、青少年の健全育成と芸術文化活動への参加促進につながり、「音楽のまち出雲」の推進に努めることができた。
◆また、助成対象事業ではないが、「出雲フィルハーモニー交響楽団 第26回定期演奏会」やアウトリーチ事業を実施し、地域の音楽文化の振興に貢献し、また質の高い音楽に触れられる機会を提供するすることができた。
◆来年度以降も出雲芸術アカデミー事業について、受講者や指導者等アカデミーに関する人すべてが、継続して音楽を学び続けられるよう、講座等内容を見直しを図りながら取り組んでいきたい。

・ 所見

◇観光地出雲に「音楽のまち」という明確な目標を持ち、市の後押しを得て実行していることは評価に値する。

◇その具体的現れとして「出雲芸術アカデミー音楽院」を組織しその中の「舞台芸術コース」に「ジュニアオーケストラ」講座を設け、約30名を対象に1年を通じてオーケストラの練習体験を積ませている。

◇出雲市としては吹奏楽や合唱が盛んで以下の実績をあげているようだ。
・2024全国吹奏楽コンクール中学生の部:出雲私立大社中学校(銅)、出雲私立第一中学校(銀) など
・2024全国合唱コンクール高校の部:県立出雲高校コーラス部(女子)(金)、出雲北稜中学・高等学校(混声)(銅)
中学の部::出雲私立斐川西中学(混声)(銀)

◇これに比しジュニアオーケストラは結成20周年とはいえ地域の認知度は高くない。吹奏楽や合唱と異なり、オーケストラには弦楽器を必要とする。地方小都市であることから現地の生徒を集めるのに苦勞しており、松江市からの受講生もいるようだ。管弦楽というアンサンブルの構築は短期間では難しい。出雲にクラシック文化を醸成するには合唱との融合、および近隣ジュニアオケとの交流が当面の課題ではないか。

◇生涯楽修コースに「邦楽合奏講座」がある。年齢や楽器の種類はわからないが、将来邦楽をホール活性化につなげることも考えられるだろう。地元邦楽演奏家や講座修了生に活動の場を提供することを期待したい。

◇自己評価の記述をもう少し充実させ今後の課題解決に役立ててほしい。

◇今後の多面的な展開により名実ともに「音楽のまち出雲」が多くの人でにぎわうことを望んでいる。